



# オリーブ便り Olive News

2019.10.01

No. 424



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 田宮 隆

基本  
理念

患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

## 新病院長 就任挨拶

香川大学医学部附属病院 病院長 田宮 隆



このたび令和元年10月1日より病院長に就任することになり、一言ご挨拶を申し上げます。

香川大学医学部附属病院は、「患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与する」ことを基本理念として発展してきました。今後も香川県民の皆様に信頼される医療を行っていきたく考えています。

まず、良質で安全な医療や環境を提供するためには、「患者安全」の考えを病院全体で再認識したいと考えています。医療は常に不確実であることを認識した上で、患者さんと協力して「患者安全」のための種々の方策を実践していきたく考えています。

医療環境については病院再開発が終了し、救命救急センター、ICU(集中治療室)を含め病棟部門は刷新あるいは改修され、GCU(新生児治療回復室)、リハビリテーション部、内視鏡診療部、外来化学療法室、検査部、放射線部、そして外来診察室も全面改修されました。新築された手術棟では、内視鏡手術支援ロボット手術、術中MRI撮影が可能なナビゲーション手術、カテーテルを用いた血管内手術が可能なハイブリッド手術を行っています。このような最新の医療環境のもとで、良質な医療を提供するとともに、優秀な人材の育成にも努めていきたく考えています。医師のみならず看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床工学技士、臨床心理士等、多くの職種のメディカルスタッフの充実に貢献したいと考えています。また、地域医療機関や医師会、行政とも連携して人材育成を行うことが、香川県の医療を支え、香川県全体を考えた地域医療の推進に役立つと考えています。

「特定機能病院」としてさらなる発展を遂げるためには、次世代につながる臨床研究や先進医療の開発を支援・育成する「余力」も必要と考えています。臨床研究支援センターと協力して、医学部のみならず本学の協力も得て、香川大学発の新規の治療法、診断法などが次々と生まれてくるような体制を作りたいと思っています。

また、スタッフの方々が最良の環境で仕事を行えるような設備、環境や接遇も重要であります。「働き方改革」の中、各部署と十分合議し、多くの職種の方々が明るく笑顔で満足して働ける職場作りに務め、職員の我々が安らかな気持ちで働くことによってはじめて患者さんの気持ちも安らかにできると考えています。

上記のことを実践するためには、さらなる安定した病院経営が必要であります。すべての職員の皆様の意見を聞きながら、病院運営に反映させていきたくと思っています。

「No man alone(決して一人では成し遂げられない)」、有名な脳神経外科医Penfield先生の言葉ですが、患者さん、職員の皆様の協力があれば、きっと素晴らしい香川大学医学部附属病院に発展すると信じています。皆様の益々のご指導・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 診療科長の横顔

### 座右の銘、ポリシー

座右の銘：艱難(かんなん)汝を玉にす

人間は苦勞・困難を乗り越えることによって立派な人物になる、という意味です。「玉」は立派な人物のことですが、苦勞を重ねるうちに人間が丸くなる、という解釈もできます。

### 診療科紹介

整形外科の取り扱う分野は多岐にわたり、当科では関節外科、脊椎外科、手外科、骨軟部腫瘍のグループに分かれそれぞれ専門性の高い医療を提供しています。関節外科は従来、股関節グループと膝関節外科に分かれていましたが、近年はスタッフが増え、リウマチ関節外科、肩関節外科、足の外科、小児外科の分野でも専門医を養成しています。手外科はマイクロサージェリーも取り扱います。また診療科全体で院内のリハビリテーション医療にも貢献しています。

## 師長の横顔

### 病棟紹介

東病棟4階は整形外科単科の45床の病棟です。脊椎疾患、関節(膝、股、足)疾患、上肢の外科、腫瘍の患者さんが主に手術を目的に入院されています。患者さんの年齢は学童期から超高齢の方まで幅が広いですが残存機能を最大限に生かし、患者さんに応じたセルフケア能力を高める自立支援をめざしています。また、退院後にどのような生活を送りたいか、患者さんやご家族の想いを大切にしつつ、退院後の生活を見据えた支援を多職種と連携・協働しながら取り組んでいます。



香川大学医学部  
整形外科学  
教授 山本 哲司



香川大学医学部附属病院  
東病棟4階  
師長 小林 美香



整形外科 集合写真



東病棟4階 スタッフ集合写真

## 手術体験セミナー開催

香川大学医学部附属病院 手術部 副部長 北村 裕亮

酷暑が続く中、8月24日に手術体験セミナーが開催されました。このセミナーは、実際の手術で使われる手技を模擬体験し、医師という職業に興味を持ってもらうために行われています。今年は県内9校から34名の高校生に参加して頂きました。はじめに、横見瀬病院長から、開会挨拶のお言葉を頂きました。全員で糸結びの練習をしたのち、各グループに分かれ、シミュレーターなどを用いた手術模擬体験を6種類行ってもらいました。ランチタイムには、2名の医学生に手術実習の体験談を語って頂きました。

どのコーナーでも高校生たちは熱心に説明を聞き、楽しみながらも緊張感をもって体験していました。セミナー自体は好評で、手術や外科手技に興味を持ってもらうことができました。彼ら、彼女らとともに働く日がいつくることを期待しております。

最後になりましたが、多大なるご協力を頂きました、諸先生方、医学部学生、事務スタッフの方々に心から御礼申し上げます。



## 直腸がんで人工肛門を回避できますか

香川大学医学部附属病院 消化器外科 講師 隈元 謙介

大腸がんの罹患者数は年間約15万人、死亡者数は年間約5万人とかつて欧米に多かった疾患が、現在は日本の方が多くなっています。便潜血検査による大腸がん検診の受診率は40%程度であり、排便時の出血や腹部症状を自覚するようになってから病院を受診され、進行した大腸がんで発見されるケースが多くみられます。大腸がんは、結腸にできる結腸がんと肛門から約20cm程度の直腸にできる直腸がんに分類できます。直腸がんと言くとすぐに人工肛門という言葉がイメージされるかもしれませんが、一般的に腫瘍が肛門から4~5cm離れていれば、直腸の切除だけで永久の人工肛門は避けられます。人工肛門とは、人工物ではなく、腫瘍切除で残った口側腸管の断端をおなかの壁を通して体外に直接出した排泄口のことです。直腸の肛門側にできたがん(下部直腸がん)の手術治療では、直腸を肛門とともに切除するため、人工肛門を作製することになります。早期がんであれば、肛門に近くても直腸を切除して残った結腸を肛門に縫い付けることで永久の人工肛門を回避できる方法もあります。進行した下部直腸がんは、男性であれば前立腺、女性であれば膣など周囲に接している臓器へがん細胞が拡がっていく(浸潤)ことや、直腸の周囲のリンパ節や骨盤の側方にあるリンパ節にもがん細胞が生着する(転移)ことがあります。肝臓や肺などへがん細胞が転移していなければ、施設によっては手術で完全に切除することを優先的に考え、周囲の臓器ごと合併切除する手術も行われます。当院のように腫瘍内科や放射線科と連携している施設では、手術で腫瘍を完全に取り去ることが難しいと判断した場合、腫瘍の縮小により完全に腫瘍を切除することを期待して、手術の前に抗がん剤を投与(化学療法)、もしくは放射線照射(放射線療法)、また化学放射線療法を行っています。腫瘍が肛門に近くても、このような治療がよく効いた場合には肛門温存が可能になり、永久の人工肛門は回避できることもあります。肛門温存できたとしても、一時的な人工肛門は必要であり、長期間にわたり排便コントロールに悩まされることも承知しておいてください。海外では、化学放射線療法が標準的に行われ、10~20%の割合で腫瘍が消失し、その後手術せずに経過をみる試みも行われています。

毎日新聞「四国健康ナビ」2018年10月2日掲載

## 第12回香川県がん診療連携協議会を開催

香川大学医学部 医療支援課



令和元年8月2日(金)香川県社会福祉総合センターにおいて「第12回香川県がん診療連携協議会」を開催しました。この協議会は、都道府県がん診療連携拠点病院である本院を中心に、県内の地域がん診療連携拠点病院(香川県立中央病院、高松赤十字病院、香川労災病院)、地域がん診療病院(三豊総合病院)、香川県及び香川県医師会、四国こどもととなの医療センターが香川県におけるがん診療連携の強化及びがん医療の均てん化の推進を目的とし、毎年開催しています。

横見瀬病院長が議長・進行を務め、三豊総合病院が地域がん診療病院に指定されたことに伴う協議会の設置要項の改正が承認されました。また、緩和医療部会部会長の交代の報告、各部会(地域連携・パス、院内がん登録、相談支援、緩和医療、研修・教育、情報・広報)の平成30年度の事業実施報告、香川県より、がん患者の妊孕性温存治療に係る研修会の案内、がん患者ニーズ調査の協力依頼がありました。

今後がん医療の均てん化、予防から社会復帰まで大局的ながん支援を目指すことを確認し、閉会しました。

## 第18回卒後臨床研修指導医養成講習会の開催報告

香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター センター長 松原 修司

去る8月23日(金)・24日(土)の2日間、第18回香川大学医学部附属病院 卒後臨床研修指導医養成講習会を開催しました。本講習会は、全国共通の指導医資格が取得出来る講習会であり、研修医を受け入れ指導する病院側の指導者養成を目的としております。開催については、厚生労働省の指針にのっとり実施することが規定されており、開催後には報告書の提出が求められています。

今年度は、世話人の先生方(8名)の指導のもと、本院20名および県内の協力型臨床研修病院13施設より15名の計35名の先生方が受講され、厚生労働省医政局長認定の修了証書を授与いたしました。

また、2020年度からの卒後臨床研修制度見直しにおける多職種による研修医評価の実施を踏まえ、本院看護師にも参加をお願いしています。特別講演では、田中 信一郎先生(中国四国厚生局健康福祉部医事課臨床研修審査専門員)、長尾 省吾先生(前香川大学 学長)よりご講演いただきました。研修制度の見直し、ならびに人材育成に関して、理解を深める貴重な機会となりました。

今後も、地域社会のニーズと変化に柔軟に対応できる医師を育成し、県内の地域医療貢献に努めてまいります。講習会開催に、ご協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



## イベントカレンダー 2019.10~11月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
10/3 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
10/13 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾 (C型肝炎の撲滅-その最新治療)	総務課	(087)891-2008
10/17 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と薬剤師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
11/7 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
11/10 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾 (眼循環疾患について~糖尿病網膜症・高血圧眼底・網膜静脈閉塞症~)	総務課	(087)891-2008
11/15 金	14:00~15:00	臨床栄養部 研修室	カフェ「おリーぶ」	がん相談支援センター	(087)891-2473
11/21 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と検査技師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066

編集委員会 (50音順)

(2019年9月現在)

阿部(看護)、荒井(検査)、大高(医療支援)、奥山(病棟)、榎原(管理)、日下(副病院長)、笹川(放射線)、  
富田(経営企画)、瀨本(外来)、芳地(薬剤)、前川(医事)、横井(医療情報)、横川(総務) [委員長 横見瀬病院長]